

# 芹沢光治良先生 と 『過去』『現在』『未来』の私

2020年4月11日(土) 折笠公徳

## 1. 本レポートの背景と目的

2020年4月、私は62歳である。1982年大型商業車メーカーに入社し、エンジニアとして技術を、マネージャーとして人間力を磨いてきた。設計部長、技術管理部長、ダカールラリー戦闘トラックのチーフエンジニア(開発責任者)を歴任した。

そして今、2019年後半から2020年前半に掛けて、自分の社会的立場、生活環境、考え方、実践行動を大きく変えようとしている。



ダカールラリー戦闘トラック

改めて光治良先生を想う時、『過去』の私はどのような御導きをいただいたか、『現在』の私はどう生かされているか、そして『未来』の私はどうしようとしているのか、ここでじっくり考え、整理し、これから生きる上での指針を明確にし、実践行動に移していきたいと思う。まさしく、このレポートは私の人生の履歴書であり計画書である。

## 2. 話の骨子

### 『過去』の私 私はどのような御導きをいただいたか

1957年	東京葛飾生まれ	
1965年	光治良先生との出会い	“人間の運命”の本の存在を知る
1993年	光治良先生の死と友の会入会	もっと早く入会していれば・・・
1994年～	芹沢文学に目覚め人生を猛進	その根底には光治良先生が常に後押ししてくれている
2006年～	“人間の運命”の影響	人間としてのあるべき姿を知る
2012年～	自己テーマ「人間らしく生るには」の追求	人間としてのあるべき姿を追求
2012年～	光治良先生との奇跡の再会	
2013年5月	富士山一周徒歩の旅(第3回)より	沼津行のバスの中、光治良先生との会話
2013年12月	富士山一周徒歩の旅(第9回)より	三女文子様、四女玲子様との交流
2016年6月	宗教探索の旅より	天理教に対する光治良先生のお考えを考察

### 『現在』 私はどう生かされているか

2019年7月20日	6年ぶり光治良先生を訪ねて	光治良先生の言動の再理解、更なる追及を決心
2019年10月28日	“天の調べ”再読	自分の事の様に文に親近感と愛おしさを感じる
2020年1月15日	自身のエッセイ集を初出版	『人間の運命』の人間の生き方を現代風にトレース
2020年3月12日	“サムライの末裔”読む	芹沢文学の描写の鋭さと人間の葛藤表現の凄さ再理解

### 『未来』 私はどうしようとしているのか

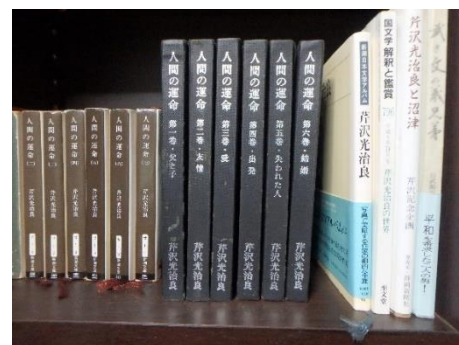
2020年4月1日	自分の夢(やりたい事)をスタート
2020年4月～	芹沢光治良親を再考察
2020年4月～	エッセイ第二弾準備(10月出版予定)
2020年4月～	小説構想
2020年4月～	書籍とSNSの融合

### 3. 『過去』の私 私はどのような御導きをいただいたか

#### 1) 1965年 光治良先生との出会い

私が光治良先生と出会ったのは1991年34歳、今から29年前とっていた。東京日野駅前にある大きな本屋で、ある本が目につくというか、その本の前で体が動かなくなるというか、それが芹沢光治良著“神の微笑”との出会いであった。

実は今般再調査をすると、それは再会であり、1965年7歳の頃、今から55年前に親戚の家の本棚にて“人間の運命”と出会っていたのである。幼いながらに何か重厚な神秘的な黒い本があるなと思った記憶がある。そしてその本がなんと今、私の本棚にある。まさしく、神のお導きだと思う。どの様なルートで私の所に舞い降りたのか、まったく記憶がない。運命の出会いとしか思えない。



人間の運命 第一巻(父と子)～第六巻(結婚) 新潮社昭和39年発行

#### 2) 1993年 光治良先生の死と友の会入会

1991年“神の微笑”を読み始め、その後“神の慈愛”

“神の計画”“人間の幸福”“人間の意志”“人間の命”“大自然の夢”“天の調べ”をとり憑かれた様に読み続けた。

1993年8月“天の調べ”の本を手にとった時、光治良先生の死を知った。

本の表紙帯びに以下に記されていた。

『大自然の神の深い愛を伝え生命の物語。96歳で生涯を終えた著者最後の書下ろし長編小説。』

私は、この時、師を亡くした深い悲しみと何故もつと早く友の会会員になっていなかったかと大きく悔やんだ。友の会になっていれば生前の光治良先生にお会いできたかもしれないし、4月6日に青山葬儀場にて執り行われた『お別れの会』に参列できたかもしれない。痛恨の後悔の元、その年に友の会に入会した。確か会員番号は210だった。その後、一ヶ月に一回の会誌で最新情報を知り、一年に一回は文学館を訪れた。

出典 インターネット



友の会の様子

#### 3) 1994年～ 芹沢文学に目覚め人生を猛進

それからの私は、小説“巴里に死す”“人間の運命”“教祖様”を立て続けに熟読した。並行して1995年“新潮日本文学アルバム 芹沢光治良”、1996年“芹沢光治良と沼津”、1996年“武と文の義兄弟”、1997年“国文学 解釈と鑑賞 特集芹沢光治良”の解説書等を読み、さらに深く光治良先生を知ろうとした。

光治良先生は私の30代後半から40代前半に掛けての人間形成に相当大きな影響を与えている。

この頃の私は、エンジニアとして一番実務に脂の乗り切った時期であり、大型トラックの設計に没頭していた。ピーク時、土日に家へ持ち込んでの仕事も含めれば残業180時間は超えている((平日残業5時間×5日+土曜休日出勤13時間+日曜日7時間)×4週間=180時間)。仕事はとても厳しかったが楽しかった。

合わせて、私には3人の子供がいるが、まさしく生存危機にある時の子孫保存の本能が働いていたと考えられる。

まさしく人生を猛進していた。

その根底には我が師と仰ぐ光治良先生が常に後押ししてくれていると思っていたことが大きい。

#### 4) 2006年～ “人間の運命” の影響

40代末、部長職になると、実務力と合わせ、人間力が必要になってきた。一つ下の職制階級室長(課長の一つ上)に比べて仕事が10倍はたいへんになった。

その時、非常に役に立ったのが“人間の運命”であった。

それは、目まぐるしく変化する環境と周りのいろいろな人たちとの人間関係の中、悩み苦しみがき、そして喜び、人間としてのあるべき姿を追求、実行していく姿が、まさしく“人間の運命”そのものであったからだ。

そして、その後50歳にて部内や社内に毎日発信するブログの骨格をなすことになる。まさしく、“人間の運命”が壮大で総合的に描いた日本の歴史、天皇の存在、戦争の悲しみ、人間の本質を常に考える事、宗教観、親子のあり方、仕事観等々を自分の立場に置き換えトレースしたのである。

6年間1日も休まず、約700のブログを発信し続けたことも光治良先生の忍耐力を見習っている。

#### 5) 2012年～ 自己テーマ「人間らしく生るには」の追求

更にブログに続くものとして、自分の心・体・頭を鍛えため、人を知るために1テーマ/1年を決め、チャレンジ・修行を開始した。

現在に至るまでの9年間実施しており、全点、詳細なレポートにまとめている。具体的には下記内容にて人、歴史、宗教、自然、文化、生活等を歩くことにより自分自身の5感と足で探索してきた。

- ◆2011年: 甲州街道(日野～下諏訪)徒歩の旅 歩行距離178.6km  
歩行時間39時間51分 目的地に向かって歩き続ける修行



当時、私が設計していたトラック

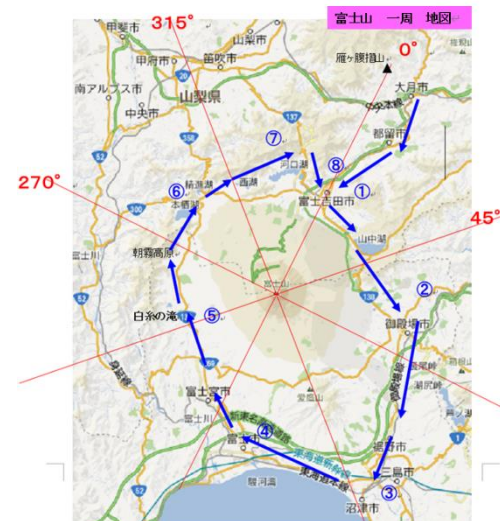


技術管理部 部長時代



- ◆2012年:日本一富士山が美しく見られる大月秀麗富嶽十二景を訪ねて  
19峰登山 自然との戦いの修行
- ◆2013年:富士山一周徒歩の旅 歩行距離178.8km  
歩行時間45時間58分 自身の5感を研ぎ澄ます修行
- ◆2014年:東京23区探索徒歩の旅 歩行距離:469km  
歩行時間142時間10分 感性の修行
- ◆2015年:神奈川の歴史を訪ねる徒歩の歩行距離:181km  
歩行時間66時間23分 日本の未来予知の修行
- ◆2016年:宗教とは何かについての探索の旅  
心と頭と体の修行
- ◆2017年:人間らしく生きる を考える上記集大成の旅  
人間になるための修行
- ◆2018年:人間、その「心」: 人、心、体、頭の更なる修行
  - ①「心」を向上させるための実践行動を実施
  - ②科学的に「心」とは何かを追究
- ◆2019年~2020年:人間、その「心」: AIは「心」を作れるのか(継続推進中)  
「人間らしく生きるには」の追求は、一生の自己テーマとして追求して行くつもりである。

## 2. 富士山一周徒歩の旅



例 ルート及び写真撮影地

### 6) 2012年~ 光治良先生との奇跡の再会

このチャレンジ・修行の中で、光治良先生と奇跡の再会をしている。

(1) 2013年5月 富士山一周徒歩の旅(第3回)より

14時20分

沼津登山東海バスに乗る。

14時35分

我入道でバスを降りる。

小生が一番尊敬している小説家・芹沢光治良先生に会いに来たのだ。

亡くなられて20年。

生前からの全記録が、ここにある芹沢光治良記念館に残され公開されている。

小生、18年前から文学会の会員になって毎年この地を訪れて先生にお会いしにきていた。文学会が無くなって4年、すっかり御無沙汰してしまった。

先生はやさしく迎えて下さった。

少し歩いて、我入道海岸に立つ。

海は太陽の光を受けてきらきら輝いていた

小説『人間の運命』より

『空が真っ青なのに、富士山頂の白雪が西風に

吹きとばされるのか、白い水けむりが右になびいて、



我入道海岸に立つ

すごい声で、元気をだせと、僕に話しているような気がした。僕はそれを見て元気を出した。』

富士と海と芹沢光治良先生。小生、空を見上げて涙をこらえた。

15時35分

沼津駅行バスに乗る。先生との会話。

折笠：先生、僕は今、元気がありません。

今日、静岡に入って一度も富士の姿を見られませんでした。

何ごとも思い通りにうまくいくとは思っていないし、

ましてや自然が自分の意志によって動くとは思っていません。

しかし、十分な計画と準備と想いと願いを持ってやって来たのに誠に残念です。

先生：富士の姿は見えなくても、そこには富士は実在します。

折笠：.....

先生：ものごとを目で見える部分だけで決めてはいけません。

ここでみることが大切なのです。

沼津駅に向かうバスの中、もしかすると思い、一番前に座った。

と、一瞬、雲の間に富士の姿がみえた。

これは、現実なのか、先生がみせてくれたのか、ここでみえたのか。

今となってはわからない。

沼津駅については富士の姿はなかった。まだまだ、修行の旅は続く。

(2)2013年12月 富士山一周徒歩の旅(第9回)より

12月13日(土)芹沢光治良 朗読会&ミニコンサート

本栖湖～富士宮浅間大社の写真リベンジ車の旅Ⅱを終え、東名高速道路にて沼津に向かった。

本日のもう一つの目的である、小説家芹沢光治良先生を偲んでの朗読会&ミニコンサートに参加するためである。

この会は沼津市制施行90周年記念事業として、沼津市と芹沢光治良文学館が催した会であり、200名に限って募集したものである。

今回、尊敬する芹沢先生のお嬢様が出演されるということで、心から、どうしても、この会に参加したかったのである。

そして、当日、小生にとっては、夢の様な出来事が起こるのである。

開演午後1時30分からであったが、どうしても一番前に座りたかったので、12時に会場へ。

なんと！ロビーでお嬢様とスタッフが御食事中に飛び



娘様たちと記念撮影

込んでしまった。また沼津芹沢文学愛好会代表の和田安弘様に初めてお会いできた。

そこで、先生を尊敬している事、元文学会会員だった事、富士山一周の旅を今日終えた事、日本一富士山が美しく見える大月に住んでいる事などなど、話に花が咲き、最後には記念撮影まで。感動で声が震えていた。

これは富士山一周徒歩の旅を今日やり終えた小生への芹沢先生の御褒美に違いない。



文子様と玲子様

### (3) 宗教とは何か 【2】宗教探索の旅 4) 天理教 天理 2016年6月 より

#### ① 宗教探索の旅

小生が天理教に興味を持ったのは、最も尊敬する小説家・芹沢光治良先生の本と出会った時から始まる。

先生の宗教観をインターネットより紹介する。

『芹沢の文学作品においては神や信仰を追求する主人公の姿、「神様」の登場などの描写が度々見られる。彼にとって神や信仰の問題が生涯を貫くテーマであるからである。芹沢の信仰の立場を語ると、日本の新宗教である天理教との関係から語らなければならない。』

光治良先生に出会って23年、今回宗教そして天理教を考える機会があることは小生にとって、この上のない喜びである。



天理教本部前的大通り

#### ② 今回の旅の目的

宗教とは何か？新宗教とは何か？天理教とは何か？伝統宗教との違いは？その教えは？良く生きるためには？

奈良県の宗教都市・天理市を訪れ、自分の五感と足で感じる。

#### ③ 旅を終えての感想

- ・天理教は、教え、祭典、教育、文化、行動から“生きることを教えるもの”として日本人に適した宗教であり、人間学、道徳心に最も則している様と考える。
- ・ただし、一新興宗教にしては規模が大き過ぎ、至るところで大きな財力を感じる。

## 4. 『現在』 私はどう生かされているか

### 1) 2019年7月20日 6年ぶり光治良先生を訪ねて

#### (1) 目的

- ① 沼津芹沢文学愛好会代表の和田安弘様に6年ぶりに御挨拶。  
いつも愛好会の情報をいただいている
- ② 芹沢光治良記念館を訪ねる。  
企画展「光治良と川端康成」を拝覧

## (2) 和田安弘様に御挨拶

6年ぶりに御挨拶させていただいた。

初めてお会いした時と同じように、おやさしそうであり、かつ思慮深い人間味を感じさせていただいた。

## (3) 芹沢光治良記念館を訪ねて

記念館主事の剣持直樹様にはたいへん丁寧に企画展を御説明いただいた。

企画展は豊富で工夫を凝らした展示物があり、更に御説明から十分に内容を理解することができた。

## (4) 小生の感想（沼津朝日への投稿文 抜粋）

光治良先生の印象は、芯はお強いがお優しい。冷静でおとなしいが、曲がったことが大嫌い、だれにでもはっきりものを申す。縁の下の力持ちで大きな仕事をするが目立たない。家族や知人をとても大切にする。一言で言うと利他の人である。

康成先生の印象は、気が小さいところがあって我儘。人を選んでからはっきりものを申す。目立つことが好きで全面的に自分を主張する。女性を溺愛するが、家庭は持たない。一言で言うと自我の人である。

お二人の綿密な関係の中で、光治良先生の言動は人間としてあるべき姿”利他の心“を我々に無言で教えてくれている。



和田代表と記念撮影

## 2) 2019年10月28日 “天の調べ”再読

30代に読んだ時の印象と今60代で読んだ印象はまるで違うものであった。

今は、まるで自分の事のように文に親近感と合わせ愛おしさを感じる。

ここで、いくつか紹介したい。

『今日は1992年2月2×日。家内の命日である。

人間の生命のたよりなさ。病弱な私の方が先に逝くものと、誰も、考えていたのに。代れるものなら、本当に代ってやりたかった。晩年を、もっと楽しませてやりたかったのに……。』

ここに光治良先生の利他の心が強く感じられる。もし神様が許してくれたならば、本当に自分の命を差し出したと思う。

『私は1993年の元旦以来、おだやかに晴天がつづいている大空を、書斎の窓から仰いで、地上の人類が、親神の子として、等しく平安でありますように、合掌して祈ったが、部屋中に、あの「大自然の調べ」が、静かにひびいていた。

1993年年1月3日のことだった。これでよしと、ペンをおいて、大きく呼吸した。』

これでよし…… 私はこの一言は光治良先生が御自分の長い一生を振りかえって、十分納得し、十分満足し、最後の言葉として発した非常に重い言葉だと思う。

その後、光治良先生は1993年3月23日、普段通り原稿執筆の後、午後7時、



老衰のため自宅で死去された。その年の7月10日に、この“天の調べ”発行される。“天の調べ”は神シリーズの最後の作品だった。

神は光治良先生にこのシリーズを書き終えるまで命を与えたのだと思う。

『生も死も ただこの日 一日 よろこびて 生きるのみ』

今でも、先生の声が聞こえる。

### 3) 2020年1月15日 エッセイ初出版

“全力で突っ走れ！ 蔵出し 折乃笠部長ブログ”

過去6年間1日も休まず、社内に約700発信した続けたブログを2年間掛けて再整理し、初めての出版準備をし、“汗と涙と笑顔のエッセイ”として世の中に発刊した。

ここで、冒頭の“はじめに”の文で次のように発信した。

『私、折乃笠といたしましては、

全ての読者の方が、笑って涙して感動して元気になれますように。

若い方が仕事以外にもいろいろなことに興味を持てますように。

ビジネスパーソンの方が少しでも仕事の進め方の参考にできますように。

サラリーマン以外の方がサラリーマンも良いもんだと思えますように。

そして、全ての読者の方が読み終えた時、人として何が大切で、真の幸せとは、を考えていただけるように願っています。』

更に、私の尊敬する元社長からの推薦文に以下のお言葉をいただいた。

『折乃笠公德さんは「とっても素敵な人」です。「面白い人」「好奇心旺盛で、前向きな人」

お母さんが旅先で倒れ、一カ月の闘病生活のあと亡くなられた話、飼っていた犬や猫が死んでしまう話が出てきます。

死というきわめて深刻な出来事を淡々と冷静に述べている折乃笠さんは、ひょっとしたら卓越した宗教家かもしれません。

この本を通じて、私は折乃笠さんに人生の生き方を教えてもらっていると思います。どうせ一度しかない人生だから、明るく楽しく元気よくやろうよと教わっている気がします。』

この本は、光治良先生が言われる人間の生き方を、私なりにほんの少し現代風にトレースしたものである。



エッセイ初出版

### 4) 2020年3月12日 “サムライの末裔” 読む

小生、小説を読んで涙したのは十年ぶりだ。娼婦リリーがむごい運命に流されながら、必死で生きて行くが、最後まで幸せになれなかった。他の人々も戦争や原爆という地獄の中で、自分の主張を曲げない様に生きていく。改めて、芹沢文学の描



写の鋭さと人間の葛藤表現の凄さを再理解することができた。

## 5. 『未来』の私 私はどうしようとしているのか

### 1) 2020年4月1日 自分の夢(やりたい事)のスタート

昨年の2019年12月31日、38年間務めた大型商用車メーカーを退職した。  
エンジニアとして技術を、マネージャーとして人間力を磨いてきた。

これからは自分の夢(やりたい事)のために

- (1)内容 : 世のため人のために、人間力を磨き、アウトプットしていきたい
- (2)何故今か : 自分に時間は無限にあるわけでもなく、まさしく今が※黄金の時代である

※黄金の時代:60歳~75歳 今までの知識、経験が十分蓄積され、  
体力、気力が伴う時期

### 2) 2020年~ 芹沢光治良観を再考察

平成7年~9年私は、芹沢光治良文学館 新潮社 全12巻(平成7年~9年発行) ¥4000/冊を将来の自身の心の財産にするために毎月購入していた。

今般、全12巻を熟読し、芹沢光治良観を再考察し、文章にまとめたい。  
数年掛かるだろうが、これは私の修行でもある。



芹沢光治良文学館全12巻  
と神シリーズ

### 3) 2020年4月~ エッセイ第二弾 (徒歩修行の旅)準備 10月出版予定

2014年東京23区探索徒歩の旅、2015年大月~日野ノンストップ徒歩、2015年神奈川の歴史を訪ねる徒歩の旅について紹介する。  
人、歴史、宗教、自然、文化、生活などを歩くことにより、自分自身の5感と足で探索している。徒歩は、今まで気づけなかった景色、音、匂い、味、空気をじっくり感じる事ができる。更に歩く速度と考える速度が同じなので、歩きながらじっくり考えることができることで、次の行動にフィードバックできる。

### 4) 2020年4月~ 小説構想 出版は来年以降、順次実行したい

- (1)観音様の様に : 家内は何故、哲学や宗教や人間学などの知識をほとんど持たないのに、慈愛に満ちた“利他の心”を持っているのか
- (2)ダカールラリー : 世界一過酷なラリーに挑戦し続けるドライバーの心理をラリーをドキュメントしながらエンジニアの目で探っていく。
- (3)空飛ぶタイヤ part2 : 口頭説明

## 5) 2020年4月～ **書籍とSNSの融合** 順次レベルアップを図っていく

書籍は読者(じっくり読んで考える)、SNSは消費者(とにかく量をこなす)の長所をうまく生かして融合させる。

例えば、本で本筋を語り、SMSで数多くの事例を語るなどなど。

◆自作ホームページ参照ください <http://orinokasa.com/>

(小生、20年1月から本格的にSNSを勉強し、現在ホームページによる情報発信基地開設、ブログによる外部発信、フェイスブックによるコミュニケーションアップを実施している。

更に、現在中級講座受講によりキャリアアップを図っている。)



自作ホームページ 情報の森

## 6. まとめ

芹沢光治良先生と『過去』『現在』『未来』の私。

今回、私は、自身の頭の整理ができ、文章で表現ができ、最初に立てた目的は十分に達成できました。たいへん有意義でありました。

もう一度繰り返しになりますが、これから先、私は、エッセイ、旅と鉄道紀行書、宗教書、そして小説を書きたいと思っています。

合わせて、書籍とSNSの融合を図って参ります。

そのためにも、**芹沢光治良観を再考察しながら、進めたいと思っています。**

**合わせて、自らの心・体・頭を鍛えるための修行を更に深め、継続していく必要があると思っています。**

- ◆心の修行 : 家族、禅、地域交流、愛好会
- ◆体の修行 : スポーツジムでの筋トレによる全身強化、長距離ウォーキングによる足腰強化
- ◆頭の修行 : 旅、読書、芸術、講座、講演会

そして、自分の持っている引き出しの数を増やし、一つ一つの引き出しの中身の量と質を高めていく。自分が持っている引き出しの中のものを出し切って、自分らしく考え抜いて、自分らしくアレンジして、自分らしく文章で表現したいと思えます。

最後に勝呂秦先生のお話から

『神は人間が幸せになること、人間的に生きることを望んでいる。

光治良先生はその声を聞こうとしていた。

幸せの条件は人間的に生きることと考えていた。

自分の引き出しから進む道を探す



引き出し  
 ・知識  
 ・知恵  
 ・経験  
 ・人間関係  
 ・  
 ・

光治良先生は人間的であることを追求し

・人間の生き方

・世の中のあり方

を真剣に考えて文学にしてきた。

「文学は もの言わぬ 神の意志に 言葉を 与えること」

“神シリーズ”は、神と納得いくまで語り尽くそうとしていた。

我々読者は光治良先生から 人間的に生きることを考えるバトン  
を渡されている。

それを受けると受けないかは読者の判断になる。』

私、私は謹んで微力ながらそのバトンを受けさせていただきたい。

そして光治良先生の言われる“人間としてのあるべき姿”を追求していきたいと  
思います。

最後に、和田代表を始め愛好会の皆様には、このような有意義な報告の機会を  
与えていただきまして、誠にありがとうございました。

折笠公德